

～NPOそばネットジャパン 1 年を振り返りさらなる前進へ～

令和 2 年 4 月 1 日 NPO 法人そばネット埼玉からNPOそばネットジャパンへ新たな旅立ちが始まりました。

折しも新型コロナウイルス感染拡大の兆候が顕著になり、2 月 28 日から全国小中高一斉休校が始まり、国民が経験したことのない「緊急事態宣言」が令和 2 年 4 月 7 日に発令され、密閉、密集、密接の所謂「3密」を避けることが求められ全国民が外出、集会、対話など社会経済活動に必要な大切な要素の自粛を余儀なくされた時期でした。

そばネットジャパン理事会は、新たなる旅立ちに向けて活発な活動を開始しなければならないはずでしたが、頻繁なメール交換による事案の処理を余儀なくされながらも、新しいロゴマークの選定、パンフレットの作成、ホームページの刷新などを進め、4 月 9 日にパンフレット及び O & A を全会員及び全国のそば打ち愛好団体に配布し、そばネットジャパンとしての活動開始をお知らせしました。

以下に主な項目ごとにこの 1 年を振り返ってみましょう。

会員数の状況について

NPO 法人そばネット埼玉の年度末団体正会員数は 47 団体、個人正会員数は 160 人、賛助会員数は 7 団体でありました。

その後、新規入会、退会があつて現在団体正会員 48 団体、個人正会員 188 人、賛助会員 7 団体となつていて会員数としてはほぼ横ばいとなっています。

(一社)全麵協が、当初はそばネットジャパン両団体加入を認めていたのが、昨年 11 月に突然そばネットジャパン会員の(一社)全麵協加入は認めない通知を発出し、当法人として 12 月 4 日に、通知文の内容は(一社)全麵協の定款や法令に違反する恐れがあり、排除をやめて協調して日本のそば食文化の発展に寄与することを提言しました。

その結果、12 月 10 日に(一社)全麵協として、「定款や法令違反となる扱いはしない」との再表明がありましたが、当法人理事会は 12 月 31 日に、「排除の本質は変わらないことから、これ以上の意見表明は行わず、当法人は設立以来、会員の入退会、活動は自由としてあり、団体の選択も会員の自主判断に委ねる。」として全会員に周知したものです。

この度の年度替わりに、退会した会員と入会した会員がほぼ同数(団体正会員)でしたが、今まで空白であった北海道と東京に新規団体が誕生し、全国組織への大きな 1 歩となったことは大きな前進と受け止めています。

今後とも、全国のそば打ち愛好者にとって魅力ある事業を展開しながら交流の輪を広げてまいります。

交流事業について

基本は、そばネット埼玉 15 年の蓄積を活用しながら新規事業を創出していくこととなり、最初の交流事業として第 4 回全日本さらしなそば打ち名人大会を 6 月に開催する予定でしたが、コロナ禍が治まる気配がなく、安全優先で中止としました。

このころ、国は、「新型コロナウイルス感染拡大防止対策が長期化することは避けられず、引き続き感染防止に努めながら社会・経済活動を続けていく必要があるとした、所謂 with コ

ロナの方針を打ち出しました。

したがって、理事会は「NPO法人であるそばネットジャパンは日本の伝統食文化を代表するとも言われるそば食文化の発展・継承に寄与する活動であり、誇りをもって感染防止対策を講じて無理のない範囲で事業を展開することとしました。

まず手始めに新規事業として、「そば栽培体験プログラム」を立ち上げました。

私たちはそば打ち愛好者であり、そば粉を使ってそばを打ち、そば料理を作って美味しくいただいています。そのそば粉はどうやって栽培され、製粉されて“そば粉”になるのかを自らが体験してみることによって、ソバ栽培に関わる生産者や製粉業者の苦勞、食材の大切さを実感することで手打ちそばに対する愛着が増すものです。

今回、直轄事業として埼玉県桶川市の圃場、さらに、会員主催・そばネットジャパン後援の埼玉県狭山市の圃場 2 か所の開催となりました。

小学生を交えた家族連れで種まき、草取り、お花見、刈り入れ、脱穀、製粉、そば打ちまで 4 か月にわたり感染対策に配慮しながら完結することができました。

次に、シニア大会、達人大会から発展してトータル 7 回目となる「第 2 回全日本そば打ちマスタース大会」を前回まで 1 組 12 人で最大 60 人実施していたものをコロナ対策で 1 組 8 人 4 組として募集したところ、60 歳から 83 歳まで定員満杯の 32 人の出場となり、熟達者同士の熱気にあふれた大会となりました。

また、毎年度末の恒例となっている「会員そば打ち対抗選手権大会」は 2020 年 3 月第 10 回大会がコロナ禍で中止となっていたのを改めて 3 月 28 日に開催しましたが、第 2 回目の緊急事態宣言は解除されたものの感染拡大は高止まりの状態であり、濃厚接触とならざるを得ない団体戦、ペア戦は行わず個人戦だけを開催しました。

粗挽き十割、粗挽き二八、郷土そばの 3 種目を 30 人の熱気あふれる出場者が揃い、特に、そばづくり五段位課題の郷土そばは半数近くの 13 人が 1 本棒丸延しなどにチャレンジした今までにない楽しい大会となりました。

そばづくり技能検定について

- ・ 技能検定関係規程の整備
検定会を実施するには、検定の意義、師範、検定員制度及び検定基準の整備が必要であり理事と会員で構成する、技能検定部会を設置して検討を進め、9 月の理事会で議決し、HPで公開しました。
- ・ 特任師範、師範、准師範、技能検定員の委嘱又は委任
そばづくり技能検定を発展させていくには、そば打ち技能を指導するそば打ちの技能、知識に優れた師範制度を確立する必要がありますが、この制度の草創期の特例として、(一社)全麺協の四段、五段位で全国審査員又は地方審査員としての実績のある方でこの制度の主旨を理解いただいた方を特別講習会を開催して師範、准師範、技能検定員として任命しました。
さらに、そば打ち技能及びそばに関する専門知識を有する方を特任師範として委嘱しました。
- ・ 師範、准師範、技能検定員研修会の開催
特任師範を講師として任用特別研修会を 3 回、師範准師範研修会を 2 回、さらに、技能検定員研修会を 1 回開催して、12 月から開催される技能検定会に備えました。
- ・ 技能検定会の開催
記念すべきそばネットジャパン最初の技能検定会は 12 月 6 日(日)、群馬県沼田市で

沼田そばの会(宮田優一会長)開催の「第1回そばづくりリスト技能検定会 in 沼田」です。沼田市役所多目的ホールで初段から3段まで32名の受検者が日ごろの研鑽の成果を発揮して全員合格となり、初めて適用した技能検定基準も大きな問題もなく幸先の良いスタートとなりました。

次いで1月にそばネットジャパン直轄の「第1回そばづくりリスト技能検定埼玉大会」が開催されましたが、受検希望者が定員64名を大幅に超えて98名となり、急遽、準備日を検定日として3日間開催することになりました。

ただ、開催1週間前に埼玉県を含む1都3県に緊急事態宣言が発令されましたが、会場の県有施設が使用を認めたことで、より感染防止対策を強化して開催しました。

結果は初、二、三、四段合わせて77名の方が合格しました。

さらに、3月に今年度最後となる直轄開催「第2回そばづくりリスト技能検定埼玉大会」が開催され、やはり募集定員(64名)を上回る72名の受験希望者となり、2日間で初段から四段まで65名の方が合格しました。

そばづくりリストそば学検定について

そばづくりリスト検定制度は、多様なそば文化を包含し、郷土そば、さらしなそばも含めた総合的な技能を学び、さらに、そば栽培、製粉から、歴史、文化などの学問を学ぶことによって、バランスのとれたそばづくりリストを育成することが目的であります。

ただ、技能についてはそばネット埼玉時代に(一社)全麵協の段位認定会を15年にわたり開催していた実績があり、目的、主旨は異なり、当然検定基準も独自のものであるものの、段位認定会の運営という点でのノウハウは十分で、前述のとおり円滑に検定会を開催することができています。

しかしながら、そば学検定となるとほとんど前例もなく関係の学識経験者の協力をいただきながら進めていくこととなります。

さらに、学士、修士、博士の各号を授与するには最低3年の期間が必要となるもので、正直、試行錯誤の連続も覚悟しております。

幸い、そばネット埼玉が「手打ちそばアカデミー」を2007年から38回開催し、そば学に関する講師としてご協力をいただいている著名な学識経験者の方々に支援を依頼したところ、現在まで6名の方をそば学検定員として委嘱することができました。

現在、各委員にテキスト原稿の作成を依頼をお願いしていて近く編集に入れるところまでできていますので、テキストが完成次第開講のお知らせをしますので今しばらくお待ちいただければと思います。

そばパートナーズ顕彰制度について

会員がそばづくりリストになるために技能検定やそば学検定を受検するほか、直轄や団体正会員主催のそばに関する活動に参加することは、多くのそば仲間との交流の機会を得ることになり、さらに、そばネットジャパンの目的であるそば食文化の継承・発展に寄与する文化活動であります。

その個々の活動に単位を授与し、一定の単位数に応じて顕彰する「そばパートナーズ顕彰制度」の運用を開始しました。

その単位を記録する「そばパートナーズノート」は会員経費負担を軽減する目的で必要な用紙は、HP からダウンロードして印刷する方式とし、既に好みのバインダーで素敵なノートを使用している会員が見受けられます。

令和 2 年度末までの単位数に応じて 6 月の総会で顕彰することで申請を受け付けておりますので、多くの方の顕彰が実現できることを期待しております。

財務状況について

コロナ禍も 1 年以上続いており、手打ちそばの講習やイベントなどコロナ禍前と同様な実施では 3 密は避けられないことから、中止或いは規模を極端に縮小して感染防止策を講じて何とか実施することにならざるを得ません。

冒頭でもお話ししましたように感染対策を講じながらなんとか活動していくことが大切であり、さらに、新しい事業を創出し、アフターコロナを迎えるための準備活動が必須であり、そのための出費を抑えるわけにはいきませんし、事務所の賃借料、光熱水費、事務費などの固定費があります。

特に大きな影響を受けたのが直轄事業として通年開講していて安定収入源であった「指導者養成講座」の大半が休講を余儀なくされるなど財務体質に不安がありました。

幸い、国の持続化支援給付金 200 万円、埼玉県 NPO 法人支援助成金 10 万円を受給することができて、そばづくり検定制度の発展をリードしていただく師範、准師範任命、技能検定員の特別研修会 3 回、特任師範による研修会、技能検定員研修会等、コロナ禍の中でも今後の事業展開のための準備を整えることができ、令和 3 年度への財源も十分ではありませんが繰越すこともできました。

理事会、評議員会の開催について

総会に次ぐ権能を有する理事会は理事、監事で構成し、役員間の意思の疎通を図ること及び事業運営等に迅速に対応するため原則月 1 回開催をしております。

ただ、この 1 年はコロナ禍でもあり、9 月 12 日開催のそばづくり検定規程等メール等のやり取りでは十分な議論が尽くせない審議以外は密になる対面理事会は避けて、メール等インターネットを活用した理事会とし、計 14 回開催しました。

メールでの理事会は提案議案に対する意見交換で時間を要することが多く、HP に掲載している議事概要報告は数日間のやり取りをまとめたものになっており、実質年間を通して意見交換をしており、まとまった都度 HP に掲載したものです。

また、当法人は、最高意思決定機関の総会を補完し、より、開かれた事業運営を推進するため、団体正会員の代表を評議員と位置づけ年 1 回以上意見交換の場を設けていました。

この評議員会は交流の場としての位置づけもあるため、何とか、対面で開催する機会を待っていましたが、現在のところ、むしろコロナ禍は治まるどころか歯止めが利かないような状況であり、総会の前に開催するにはメールによる会議とならざるを得ないかもしれません。

いずれにしても、当法人は風通しの良い会員にとって開かれた組織であり、今後とも理事会等の情報をきめ細かく公開してまいります。

以上、そばネットジャパン始動 1 年の節目として主な運営の状況について報告をさせていただきましたが、このコロナ禍という環境の中では概ね順調な進捗であった自負しております。

ただ、そば学検定など予定より遅れている事業もありますので、引き続き会員の皆さまのご理解とご協力を得ながら着実に進めてまいります。

今年に入って、待望のワクチン接種が海外で高い効果が評価される段階になり、日本でもワクチン接種の計画も進み、近い将来、インフルエンザ並みになれば日常生活に戻れるのではと期待が膨らんできましたが、変異ウィルスの出現などあってしばらくは感染防止対策を徹底しなければなりません。

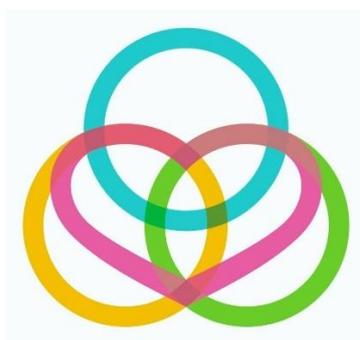
そばネットジャパンは with コロナを理解した上で、如何に事業を動かしていくか、会員の皆さんと共に知恵と工夫を出し合い、感染防止対策を講じながら前進してまいります。

ご紹介したように、そばネットジャパン 2年目に北海道、東京、福島、茨城、千葉に新しい交流の輪が生まれました。

この輪は今までの輪と同様、異なる意見や立場を認め合い、そばで繋がる“優しく温かい輪(和)”であり、これから輪と輪が連なって少しずつ広がっていくことでしょう。

令和3年4月

NPOそばネットジャパン
代表理事 阿部成男



NPOそばネットジャパンシンボルロゴ
ブルーが交流の輪、オレンジが地域そば文化、グリーンがそばづくり
3つの輪が重なった中心にハート(心)が浮かぶ
(廣瀬 力作 NPOそばネットジャパン顧問デザイナー)

※ この報告で紹介した事業の報告、特任師範、そば学検定委員名簿等の詳細はHPに掲載してあります。